

学校関係者評価結果対応書

令和4年3月1日

尾道市立高西中学校

項目	課題	対応・改善策等
<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">集団づくりの カリマネの 推進</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○策定したパワーアップアクションの実施が不十分であった。 ○活動自体が目的にならないよう「何のためにするのか」といった視点を教員と生徒がしっかりと共有する必要がある。 ○話合いのマンネリ化を防ぐ必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ○「学級経営計画」に学級力向上プロジェクトを十分に反映させる。 ○生徒会担当がイニシアティブをとりながら、各専門委員会がより一層自立し、各担当教員をベースとして活動していくことができるシステムづくりを進める。 ○自分たちの集団を自分たちでよくするための、生徒にとって必然性のある議題の設定を行う。
<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">授業改善の カリマネの 推進</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○指導案の本時の展開の内容をより一層充実させる必要がある。 ○生徒自身が課題を見つけたという実感を持たせる工夫が必要である。 ○「個別最適な学び」の視点を各授業でさらに取り入れる必要がある。 ○課題に対して「予想」を立てさせる、「解決方法（検証）の仕方」を考えさせる視点を取り入れる必要がある。 ○学力分析と授業改善計画の見直しを定期的に行う必要がある。 ○小中の授業見学を行う教員が固定化されており、交流・還元が少ない。 	<ul style="list-style-type: none"> ○誰が見てもイメージしやすい単元構想図，指導案づくりをさらに追求する。 ○生徒の目線にたち，既習事項とのズレを意識し，「なぜ」と思わせる導入を目指す。 ○個別最適な学びの視点を取り入れ，生徒が学びをデザインできる部分を増やす。 ○「課題設定⇒予想⇒検証⇒振り返り」という探究のサイクルを意識した授業を各授業でも取り入れる。 ○学力分析を反映した試験問題を作成し，そこで明らかになった弱点について，授業や家庭学習を通して克服させる。 ○合同の研修等において，「表現力の育成」「見方・考え方を働かせること」を小中が共通テーマとして取り組む。
<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">働き方改革 の カリマネ の 推進</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○業務が主任等の一部の教員の負担にならないようにする必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ○校務分掌表と分担の精選と整備を進める。特に主任，主事に業務が偏らないように，各分掌におけるプロジェクト等に，他の教職員が計画段階から積極的に参画するシステムを構築する。

